

ドナウ通信

在ブダペスト

日本人会会報

秋の夜長の音楽会

やはり秋から冬は、夜の音楽会のシーズンです。小林研一郎さんも11月から国立交響楽団に戻り、春のシーズンに引き続き、ベートーベンの交響曲シリーズを精力的にこなされています。小林さんは来年春、ハンガリーデビュー20周年を迎え、3月6日にリスト音楽院で記念コンサートが企画され、早稲田大学グリーククラブとピアニストの加藤洋之君(リスト音楽院)の共演が予定されています。

ちょうど11月6日の土曜日、ベートーベンの2番、5番のコンサートへ出かけ、思いがけない朗報を得ました。コンサート開始に先立ちアナウンスがあり、ウクライナ生れで、旧ソ連の巨匠リヒテルが突然、ブダペストを来訪することにになり、火曜日に特別の演奏会を催すことになったので、休憩時間にチケットを発売するというのです。1枚1500フォリントのチケットを、有り難く買い求めたことはいまでもありません。

リヒテルにとって、ブダペストは特別の感慨がある街だということですが、後で分かりました。彼が始めてソ連を出て外国で演奏した都市が、ブダペストだったのです。1954年のことです。新聞報道によると、これには語り継がれた伝説があり、リスト音楽院で開催されたリヒテルのコン

サートにはわずかな聴衆しか集まらず、リヒテルをがっかりさせたのですが、休憩時間に聴衆が友人たちに電話を掛けまくりとんでもない無名のピアニストがいるから駆けつけよと伝え、第二部が始まる頃には満席になったというのです。当時、それほど電話が普及していたとも思われませんが、リヒテルがブダペストの聴衆に満席したことは確からしいのです。

こういうチャンスもあるから、ブダペストの生活も捨てたものではないなどと納得しているこの頃です。



大使館からのお知らせ

インビジュアル・ネイチャー展

12月2日から2月28日

日本の現代芸術作家4人の作品を展示するハンガリーでは始めての本格的な日本現代芸術展です。

於・ルードヴィッヒ博物館

(王宮ビルA)

和菓子デモンストレーション

12月11日(土)15時

どら焼、練切などのレクチャーと実演を行います。入場整理券は、国際交流基金で受け付けますが、人数に限りがありますのでハンガリー人の方を優先します。

於・ケンピンスキー・ホテル

写真展・日本紹介ビデオ上映

11月12日から12月31日

写真展「日本」

Nagy Liszti 氏の撮影した写真から

約100枚を展示します。

11月14日、21日、27日及び12月4日の

11時から12時及び、15時から16時

日本紹介ビデオ上映

於・民俗学博物館

(Bp. V., Kossuth Tér 12.)

伝統陶芸展

12月16日から1月23日

ホッフフェレンツ博物館 (Andrassy

út 103.)に於いて、日本の伝統陶芸約

60展を展示します。その後、デプレッ

ェンのデーリ博物館でも展示します。

映画(溝口健二監督作品)上映会

1月14日から2月3日

11夜で11作を上映します。

於・Toldi BBS Studio Mozi

(Bp., Bajcsy-Zs. út. 36-38)

お問い合わせ

日本大使館 (15614533)

国際交流基金事務所

(26911004)

国連職員募集のお知らせ

国連では1994年職員募集を行っています。詳しくは、大使館までお問い合わせ下さい。

日本政府のハンガリー・オペラ座に対する音響・映像機材の供与

1、日本政府は平成4年度の対ハンガリー文化無償協力として、ブダペストの国立オペラ座に対して4900万円(約4200万フォリント)相当の音響・映像機材(パナソニック製)を供与しました。

2、10月21日(木)、当地の国立オペラ座に於いて行われました引渡式においては、堤大使よりハンガリー文化教育省のフェケテ次官補にたいして供与機材の目録を贈呈しました。同日オペラ座では、たまたまシェークスピア原作のバレエ「真夏の夜の夢」が上映さ

れていましたので、これを見る為に集まっていた満員の観客も、この引渡式を目撃したうえ、日本政府供与になる最新鋭の音響・映像機材による音響効果の素晴らしさを十分に楽しめたと思います。また当地のテレビ・ラジオはもとより各新聞とも、この日本の文化協力について大きく報道してくれました。

3、日本がハンガリーに文化無償供与を開始したのは1991年からで、その第1号はハンガリー国立音響楽団に対する楽器の供与で、オペラ座に対する上記の文化無償の供与はこれに次ぐ第2号となります。



補習校便り

人物往来



(敬省略)

△大使館関係▽

離任

古川 麗

9月

着任

覚田 広美

7月

長谷 裕子

9月

△商工会関係▽

着任

渡辺 博司

古河電工

6月

小俣 和則

マジヤール

6月

恵子

スズキ

8月

11月にしては、思わぬ大雪で皆様もさぞお困りだったことでしょう。補習校もこの大雪のために2日間臨時休校になりました。雪が降って困るのは大人達だけで、子供達は雪遊びができるので大喜びです。

早いもので、補習校も5月末にここモーリツ高校に移転してから、半年近くになりました。移転当初は、大きな校舎と高校の教室を借りての授業という、今までとは異なった環境に、子供達・教師共に戸惑いがありました。

しかし、今ではすっかり新しい環境にも慣れ、みんな楽しく学校生活を送っています。小人数の子供達には広すぎるくらいの教室、落ち着いて本が読める図書館、思い切り遊べる広場などにとっても満足しています。加えて、モーリツ高校側も補習校に対してはとても好意的で何かとよくしてくれ、移転して良かったと思っています。

さて、補習校では今、2学期の大きな行事である学習発表会に向けて練習に熱が入っているところです。例年、作文や教科の発表をしてきましたが、今年も、一つのことをみんなが協力してやり遂げる成就感を持たせたいと考え、全学年劇と音楽を行うことにしました。

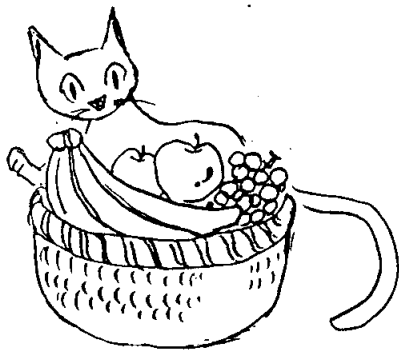
劇の台本を始めて手にした子供達の中には、

「この劇はおもしろくなさそう。」とか「この役はやりたくない。」などと言って劇に消極的な子供もいました。けれども、練習をやっているうちに劇が好きになり、意欲的に取り組むようになりました。台詞が棒読みだった子供も感情を込めていえるようになってきました。

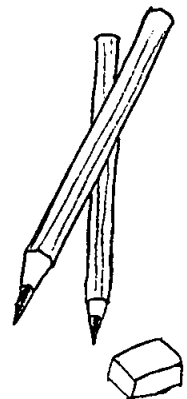
劇や音楽をする上で一番の問題は、やはり練習時間が限られているということです。日本の学校のように毎日練習はできません。また、全員が揃っての練習も土曜日だけです。それだけに子供達は一生懸命で、なんとか良い学

習発表会にしようと、張り切っています。この点が補習校の子供達の立派なところだと思えます。この調子なら、きっと学習発表会当日には、素晴らしい発表をしてくれるものと信じています。

今は、まだ補習校の保護者だけを対象とした発表会ですが、将来はもっと枠を広げ一般の方々にも案内をし、補習校の子供達の頑張りを見ていただきたいと考えています。



お知らせ



・東京芸術大学を卒業後、1992年よりリスト音楽院に留学中の柴垣英二君が、今年六月にドイツのツヴィッカウで行われた、『ロベルト・シューマン国際音楽コンクール』で、第2位に入賞しました。

お祝いとご報告を申し上げます。

・加藤洋一君（ウチ）、ハンガリー国立オーケストラと共演。来年、1994年3月6日、指揮者小林研一郎氏のハンガリーにおける演奏活動20周年を記念する演奏会にて、シューマンのピアノ協奏曲を、リスト音楽院大ホールにて演奏予定。

「ラジオ日本」についてのお知らせ

ラジオっ子

皆さんは日本放送協会（NHK）が短波で全世界に向けて放送している「ラジオ日本」を聞いたことがあるでしょうか。

毎日のべ60時間、22の言葉で、内外のニュースを伝え、日本人の暮らしや文化、政治、経済、社会の動き、産業、科学の現状を紹介すると共に、重要な国際課題については日本の立場や主張、世論の動向を正しく説明するなどして、国際相互理解や友好親善、文化交流に大きな役割を果たしています。ラジオ日本の放送は、全世界を対象に日本語と英語を原則として交互に放送する「一般向け放送」と「地域向け放送」（欧州では、スウェーデンやスペイン向け等があります。）のふたつの系統があります。

このラジオ日本は、南イエメン動乱など緊急事態発生の際には現地の情勢を日本語及び英語により入手するための貴重な情報源として認識されています。

ラジオ日本には無料でしかも昼間と深夜を除きほぼ継続的に放送を行っているという特徴もあります。

ラジオ・ジャパン周波数表

（平成5年11月7日から

平成6年3月31日まで）

・周波数 6050MHz

エリア 欧州

送信所 Skeitton, U. K.

言語 日本語

・周波数 6125MHz

エリア 欧州

送信所 Skeitton, U. K.

言語 日本語

5-6時

・周波数 5960MHz

エリア 欧州

送信所 Skeitton, U. K.

言語 日本語

・周波数 6030MHz

エリア 欧州

送信所 Skeitton, U. K.

言語 日本語

・周波数 17820MHz

エリア 中東

送信所 Ekajla, Silliana

言語 日本語

6-7時

・周波数 6085MHz

1-2時

言語 英語

送信所 Skeitton, U. K.

・周波数 6125MHz

エリア 欧州

言語 英語

送信所 Skeitton, U. K.

0-1時（ハンガリー時間）以下同

・周波数 6050MHz

エリア 欧州

送信所 Skeitton, U. K.

言語 英語

・周波数 6125MHz

エリア 欧州

送信所 Skeitton, U. K.

言語 英語

エリア	欧州		言語	英語		19	20時		
送信所	Skeilton, U. K.		・周波数	21575MHz		・周波数	17780MHz		
言語	英語		エリア	欧・中東		エリア	中東		
・周波数	7230MHz		送信所	Moyabi, Gabon		送信所	Ekala, Srilanka		
エリア	欧州		言語	英語		言語	日本語		
送信所	Skeilton, U. K.		9	10時		21	22時		
言語	英語		・周波数	21575MHz		・周波数	6085MHz		
7	8時		エリア	欧・中東		エリア	欧州		
・周波数	5970MHz		送信所	Moyabi, Gabon		送信所	Skeilton, U. K.		
エリア	欧州		言語	日本語		言語	日本語		
送信所	Skeilton, U. K.		・周波数	21640MHz		22	23時		
言語	日本語		エリア	欧・中東		・周波数	11925MHz		
・周波数	6085MHz		送信所	Moyabi, Gabon		エリア	欧州		
エリア	欧州		言語	日本語		送信所	Skeilton, U. K.		
送信所	Skeilton, U. K.		17	18時		言語	英語		
言語	日本語		・周波数	21700MHz		23	24時		
8	9時		エリア	中東・欧		・周波数	6050MHz		
・周波数	5970MHz		送信所	Moyabi, Gabon		エリア	欧州		
エリア	欧州		言語	日本語		送信所	Skeilton, U. K.		
送信所	Skeilton, U. K.		18	19時		言語	日本語		
言語	英語		・周波数	17780MHz		・周波数	6125MHz		
・周波数	6085MHz		エリア	中東		エリア	欧州		
エリア	欧州		送信所	Ekala, Srilanka		送信所	Skeilton, U. K.		
送信所	Skeilton, U. K.		言語	英語		言語	日本語		

「一時帰国によせて」

リスト音楽院 東 順子

(ピアノ)

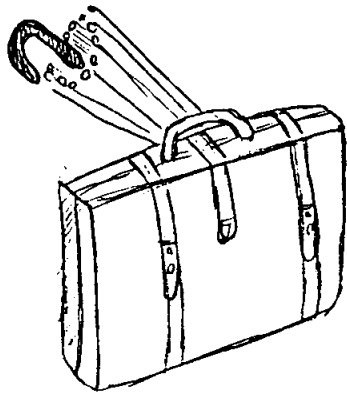
私は、リスト音楽院に留学していましたが、この夏3年ぶりに一時帰国いたしました。そこで久しぶりの帰国で感じた印象などを少しお話しします。

日本での生活は、本当に便利です。欲しい情報は容易に入手でき、あらゆるものの機械化が進み、スピーディーかつ簡易になっています。スーパーマーケットに行けば種類は豊富ですぐに食べられるものが並んでいますし、おいしいですし……。

こちらでは、私がこちらに来た90年頃は特に、たとえば鶏肉は一羽丸ごと売っているのです、悪戦苦闘してそれを捌いて、胸肉の奥からササミをとりだしたりしたものです。(もっとも日本ではササミだけをまとめてパックで売っていたりしますので、ササミは鶏一

羽につき2つしか取れないことを再認識しましたが……)又、ぎょうざや春巻を食べたいと思ったら、皮から自分で作り始めなければなりません。ただ、そのような生活の中では「原点に戻る」ことをしばしば考えさせられます。欲しいと思うものが手に入らなかったら、自分自身の手で作り上げてしまおうか、他の物で何とか代用できないかということに知恵を絞ったり……。

一方、3年前に比べると、ブダペストは日に日に変わり、店頭ではいろいろな西側の製品が並ぶようになり、「あ、こんな物も買えるようになったんだ



わ。」とささやかながら驚かされたりし、物を手に入れることができる喜びを感じる……。時々、そのような素朴な感覚に、自分でもおかしくなる時があります。逆に日本の社会の中では、そういう感覚は知らず知らず忘れられつつあるのかもしれない。

難しいもので、物質的に恵まれ何でも手に入り、便利になるということは、人々の生活を豊かにする反面、素朴な感動を忘れさせる事にも繋がっている気がします。

ところで、私は機会があつて、イギリスのブラシャコープという地方で開かれたマスターコースに参加しました。そこはきれいな海と豊かな緑の丘と澄みきった空に囲まれた美しい所でした。

ヴァイオリニストの巨匠シャンドール・ヴェーグ先生は「この素晴らしい自然を、自分自身の内面に持つ目で感じなさい。人間は本能的に自然を受け入れることができるはず。音楽は、この自然を感じとる感覚を持たずには表現することはできない。」と、海が一面に見えるレッスン室で話して下さいました。

感受性をもった第一の楽器は自分自身、ピアノやヴァイオリンなどは表現手段としての第二の楽器だ、だから自分の体が感じなければ、第二の楽器には伝わらない。一というお話でした。

それにはやはり一生をかけて内なる己を知り、音楽だけでなく、哲学、思想、宗教、科学、社会的なこと全般 e t c . . . 。自分の知識を深めることによって、また、人間を高めることによって音楽もそれらと接点をもっていくような気がします。だから、一生勉強しても終りはないのでしょう。音楽を勉強することも、つきつめていえば、生きていく手段なのですから。

人や物や情報に溢れ、合理的で便利な日本の生活は、とても住みやすいものです。と同時に、原点に立ち戻り、自分の内なる本能を開放して自然をありのままに感じること、その感覚のままにじっくり音楽や自分と向き合う姿勢をいつまでも忘れないようにすることが必要であることを学びました。

ご報告

富永 美智代

(声楽)

去る11月13日(土)、リスト音楽学院小ホールに於て、邦人留学生コンサート(日本人会主催、日本大使館後援)を無事に終えることができました。

前日からわかかに雪が降り積もり、当日も生憎と天候に恵まれず、観客の動員は今ひとつというところでしたが大きなアクセシビリティも発生せず、会の進行の具合や内容はまずまず充実したものではなかったでしょうか。

そして今回はプログラム・ちらしの両方共、マジャール語の印刷が施されていたのには驚きました。

前回と同様に、プログラムの表紙には可愛らしい童子のイラストが載せられ、これらを目にした際のハンガリーの方々の嬉しそうな表情が、私にはとても印象的でした。

ハンガリー在住の日本人の方々が、私達の従事しております芸術というものに、どれだけ理解を示し、感心を寄せてくださっているのか、それがこのようなコンサートを定期的に開催して頂ける所以と存じます。

その御厚情に私達は、ただただ真摯な演奏で、お応えするしかございません。また、この会に参加させていただくことによって、新たな活動の場も開けていくようでございます。

最後になりましたが、日本人会会長の桑島氏、酒井氏、またプログラムの作成等、日本大使館文化担当の竹内氏、中山氏、写真撮影等の Canon さんのご協力をはじめとしまして、この演奏会を催すにあたって御尽力を頂きました全ての方々に、この紙面をお借りして、出演者一同より心からお礼申しあげます。



シャルゴタルヤンの暮らし

堀尾 広子

私達はシャルゴタルヤンという町に住んでいます。

ブダペストから北東へ百二十キロに所にある人口およそ六万人都市でアパートと工場の立ち並ぶ何の面白身もない町です。

この町に主人達の働く工場があり、ハンガリー人百五十人と主人とT氏の日本人二人がいます。T氏は単身赴任です。日本人の女性は私一人という訳です。もう四年半も住んでしまいました。最初二年というお話しでしたので二年くらいなら外国生活も面白いかなと気軽に考えて、大した準備もせずやって来ました。

一九八九年の五月の末でしたので季節も良く、美しく花々が咲き緑も豊かで新鮮な空気が爽やかでした。息子も一緒でしたのでしばらくの間は見る物

聞く物も珍しく、楽しい毎日でした。やがて九月から息子はブダペストのリスト音楽院へ行ってしまい、主人は毎日仕事に追われ始め、私は一人で暮らさなくてはならなくなってしまいました。

一日中大した仕事もなく一人きり。隣近所の人々は、皆が仕事に出掛けてしまい、暇な私の相手などしてくれる人は誰もいません。好きな読書と編み物、パッチワーク、ピアノ等やってみました。一人では何事もつまりません。本もその頃で、三百冊近くも読んでしまいました。本当に退屈し始めた頃、向かいに住むモニカという高校生の女の子が一人の男子高校生を連れてきました。彼は日本に興味を持っていて日本語を習いたいとのこと。二人共英語が話せて何とか通じ、急なことに私自身困っていましたが、主人が暇なことだし、やってみたらと申します。思い切って、マジャー語を教えてください。一緒に勉強してみよう、

という事で始めました。

はじめ、毎週一回真面目に規則正しくやっていたのですが、彼が一年目に大受検に失敗してからは、週に二・三度、読み書きを中心にやりました。二年目からはほとんど話さなくては何もならないと言うことで、息子の友達、私の日本からの観光にくる友達などに会って、案内をさせましたら、かなり急速に話せるようになりました。そして今年で三年目、六月に日本語の中級の検定試験を受け、筆記、会話共、かなりいい点数で合格しました。来年は上級試験を目指してほしいと思っています。

他にも会社の人、近所の小学生、中学生が自ら習いたいと言って自宅にも来ています。私もこの頃教えるのが趣味となり、我が家に出入りするハンガリー人をつかまえては、つい教えてしまっていますので、時々、彼らに町で会うと、「こんにちわ」とか、「おげんきですか」とか声をかけられ、びっ

シャルゴタルヤンの暮らし

堀尾 広子

私達はシャルゴタルヤンという町に住んでいます。

ブダペストから北東へ百二十キロに所にある人口およそ六万人都市でアパートと工場の立ち並ぶ何の面白身もない町です。

この町に主人達の働く工場があり、ハンガリー人百五十人と主人とT氏の日本人二人がいます。T氏は単身赴任です。日本人の女性は私一人という訳です。もう四年半も住んでしまいました。最初二年というお話しでしたので二年くらいなら外国生活も面白いかなと気軽に考えて、大した準備もせずやって来ました。

一九八九年の五月の末でしたので季節も良く、美しく花々が咲き緑も豊かで新鮮な空気が爽やかでした。息子も一緒でしたのでしばらくの間は見る物

聞く物も珍しく、楽しい毎日でした。やがて九月から息子はブダペストのリスト音楽院へ行ってしまい、主人は毎日仕事に追われ始め、私は一人で暮らさなくてはならなくなってしまいました。

一日中大した仕事もなく一人きり。隣近所の人々は、皆が仕事に出掛けてしまい、暇な私の相手などしてくれる人は誰もいません。好きな読書と編み物、パッチワーク、ピアノ等やってみました。一人では何事もつまりません。本もその頃で、三百冊近くも読んでしまいました。本当に退屈し始めた頃、向かいに住むモニカという高校生の女の子が一人の男子高校生を連れてきました。彼は日本に興味を持っていて日本語を習いたいとのこと。二人共英語が話せて何とか通じ、急なことに私自身困っていましたが、主人が暇なことだし、やってみたらと申します。思い切って、マジャー語を教えてください。一緒に勉強してみましよう、

という事で始めました。

はじめ、毎週一回真面目に規則正しくやっていたましたが、彼が一年目に大受検に失敗してからは、週に二・三度、読み書きを中心にやりました。二年目からはほとんど話さなくては何もならないと言うことで、息子の友達、私の日本からの観光にくる友達などに会って、案内をさせましたら、かなり急速に話せるようになりました。そして今年で三年目、六月に日本語の中級の検定試験を受け、筆記、会話共、かなりいい点数で合格しました。来年は上級試験を目指してほしいと思っています。

他にも会社の人、近所の小学生、中学生が自ら習いたいと言って自宅にも来ています。私もこの頃教えるのが趣味となり、我が家に出入りするハンガリー人をつかまえては、つい教えてしまっていますので、時々、彼らに町で会うと、「こんにちわ」とか、「おげんきですか」とか声をかけられ、びっ

ことはいうまでもありません。

それからしばらくして、今度は私が大病を患い、入院、手術ということになりました。主人も私も、当時どの病院に入院したか思い出せないのですが世話になった人々だけは鮮明に記憶に残っています。

こういう経験をした私達は、この国がどの駐在地より、思い出のある地になりました。そして、そのハンガリーに再び駐在することになったのです。

今回の駐在も、たいへんな出来事続きでした。父の死で、一時帰国していた折、主人の入院の報が届き、急いでブダペストへ戻り、その足で病院に泊まり込むことになりました。病名は「敗血症」。たいへんな重態でした。次の日から、下血と吐血、輸血、手術と続き、容体もめまぐるしく変わりました。身体の3カ所の関節をバクテリアに犯され身動きできないばかりか、十二指腸まで犯されていたのです。主人は余りの痛さに、痛い足、手を切ってくれと叫ぶことがありました。

ようやく一命を取り止めたかに見えてもバクテリアの活動は止まらず、主人は激しい痛みと熱で苦しみました。そして2カ月。バクテリアのために曲がってしまった手首や膝、動かない指のリハビリが始まりました。

この病院には最新の医療設備・器具はなかったのですが、お医者さんにも看護婦さんたちにも、本当によくしていただきました。看護婦さんには週2回の夜勤があり、朝方入院患者の体を、シーツを替えながら、手際よく洗い、パジャマを着替えさせて、当直の勤務が終わるのです。そのお陰で、身動きできなかった主人には、床擦れ一つなく、入院生活を終えました。

敗血症は発病の直前にロンドンでおこなった手術が原因で、二次感染したのだと思います。ただ、発病のきっかけがゴルフの捻挫だったものですからヤーノシュ病院、オルフィ病院を回ることになったのですが、「敗血症」とわかった段階で専門のラスロー病院に移されたのです。オルフィ病院にはリ

ハビリの際に、再び移送されることになりましたが、その間、何人ものお医者さんが、連係プレーで主人の容体を見守り続けてくださいました。

このような大病は2度とごめんですが、貴重な体験でした。朝のうちに、1日分のパンをもらうことを知らなくて、夜お腹をすかしたり泣き笑いの入院生活も、今は昔話になりました。

仕事に復帰したその日。主人を送りだしたその朝を、私は一生忘れないでしょう。主人の命を助けていただいた人々とともに、ブダペストを忘れないでしょう。

12月21日、長男がここブダペストで結婚式を挙げます。始めてブダペストの地を訪れた20年前、長男は6才、長女は4才、初雪の日でした。





掲示板



★貸室します

Arpadd hidek (地下鉄)の近く、2.5室(家具付き)を12月16日より2-3年お貸しします。電話は現在付いていませんが、93年までの約束でつく予定です。音楽関係の方も歓迎します。

家賃は2万5千フォリント

(光熱費別)

13区 Petnehizy utca 33. IX

連絡先

☎14712486

Szathmari Bela

(英語がわかりますが、不在の場合)

☎11218267

松本 英香根 あか

★貸し家

2区、HidekútのSzabadság通りに貸し家(庭付き)があります。家賃は120㎡ほどです。家賃は大家との交渉によります。大家との連絡方法は編集室にお尋ねください。

★求職

*32才男性。日本人(都立大学卒)。

日本とオーストリアで、営業・販売の経験あり。

*31才男性。ハンガリー人(工科大学卒)。

日本にて3年の研修経験あり。

★「セナラ」からのお知らせ

電話番号が変更になりました。

新しい番号は、26710707。

次の日曜日には、昼(11時30分-14時30分)、夜(18時-22時30分)とも開店しています。

12月5、12、19日、

1月2日

編集室より

遅ればせながら、秋季・冬季号をお送りします。

皆様からの随筆、ご意見、掲示板への情報を、随時お待ちしておりますので、電話あるいはFAXでご連絡ください。

TEL/FAX...26614967

(盛田)